

やまゆり

学校だより

令和4年12月23日
74号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一
校内研究主題 「WEBQUを活用し学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点 「豊かな心の育成」 2学期の「終業式」を行いました

本日、2学期の終業式を行いました。
一人一人の生徒が、「節目」を大切に作る気持ちをしっかりともち、静寂を保ちながら会場に集合しました。話す人を見つめ、微動だにしないその姿から、2学期を振り返り、より良い自分や学校を創造しようとする決意を感じました。

校長からの話

① 生活・学習・部活動・委員会・若鮎祭等の大きな成果の要因について考える。

- 1) 各自が出来ることをしっかり取り組み、**凡事徹底**に努力したこと。
- 2) **3年生**が様々な場面でリーダーとして活躍したこと。
- 3) 凡事徹底を基盤に他校ではできない、**救急救命等の「レア」な活動に挑戦**したこと。
- 4) **不安や緊張から逃げずに、正面から取り組んだこと。**
- 5) **本気で一生懸命取り組み、満足感や達成感を得たこと。**
- 6) **困ることを自ら相談**すること。
- 7) **お互いに励まし合い、支え合い、一致団結**したこと。

② 3学期の更なる飛躍のために、**冬休みを充実**させる。

- 1) **心と体の健康が第一**であること。歯医者等の病院に通い体調を万全にする。
- 2) **家族の一員**として掃除や洗濯などの家事を積極的にする。
- 3) 自分の時つげのために**若鮎タイム**を活用し、計画と実行、修正の努力をする。



生徒総会で学習に関する「若鮎タイムの設定」について決定しました。

12月20日に「**生徒総会**」を行い、**2学期の成果と課題、今後の努力点**について話し合いをしました。冬休みには、**学習に重点を置くために、午後4時～6時までを若鮎タイムとして各自が主体的に学習に取り組むことを決議**しました。ご家庭でも各自の取り組みを支え、励まして下さい。

若鮎タイムの提案

生徒会役員の言葉



学校教育重点目標 「社会に貢献しながら自利通する生徒の育成」

3年生の15歳の提言が新聞記事で報道されました

今までの中でも最も高い評価を受けた**3年生の15歳の提言**が昨日の**山日新聞**で報道されました。学校で学んだ力を、ふるさと道志村の維持・発展のために生かす学習は、**学校教育目標の「貢献」を実現し、今後の地域の担い手の育成のためにも重要な学び**だと考えています。しかし、素晴らしい発表や成果は、突然できるものではありません。**過去7年積み上げてきた成果や課題を生かし、着実により良い学習**にすることを今後も大切にしたいと思います。

釣り、スマホゲームで活性化を

道志中生が村に提言

富士

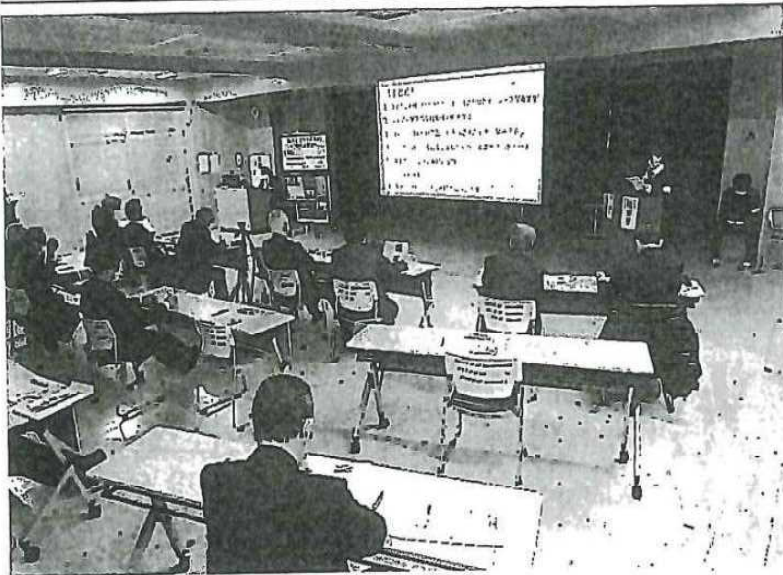
志己澤
篤尚

北麓

沢本
深沢

道志中の3年生は14日、学校に長田富也村長らを招き、スマートフォンなどのゲームや釣りのイベントなどを通じた村の活性化策を提言した。

生徒10人が「私のふるさと道志村 15歳の提言」と題して、歴史文化や子育て支援、ふるさと納税など八つの意見を発表。道志川で釣りイベントを開くことや、スマホゲーム「ポケモンGO（ゴー）」を活用した道の駅の利用促進策などを挙げた。



長田村長や村議、村職員が生徒の発表に耳を傾け、生徒の代表が長田村長に提言書を

手渡した。長田村長は「議会や村と相談し、村政の参考にしたい」と感想。釣りについて提言した佐藤秀虎さんは「（中学生の）自分ならではの視点をもって学習し、村に提言できた」と話していた。総合学習の時間に毎年実施

している、7回目。11月から「持続発展する道志村を目指して」をテーマに、情報収集やフィールドワークをした。村は夜間に通学先の高校と村内を結ぶ無料バスを運行するなど、提言に基づいた事業を展開している。

〈深沢澤〉

中学生が村に施策を提言した「私のふるさと道志村 15歳の提言」
|| 道志中

学校重点目標 「豊かな心の育成」

ボランティア講話をして下さった藤本さんからお礼状が届きました

災害ボランティアの講話をして下さった藤本さんに、一人一人の学びや感想をお送りしました。そのお礼状が届きました。(千葉教頭先生が対応)

何かをしていただいたら、出来る範囲のお礼をすることによってお互いの信用・信頼は深まります。社会の中で大事な礼儀作法をこの体験から学びましょう。

貢献・ボランティアの教育的意義

- ① 人の役に立つ貢献をする
- ↓
- ② 自分が認められる
- ↓
- ③ 誰かに必要とされる
- ↓
- ④ 自己肯定感が向上する
- ↓
- ⑤ 愛される

拝啓 寒冷のみぎり、ご清祥のこととお喜び申し上げます。 過日は貴校の福祉講話にお招きいただき、有り難うございました。また、私のつたない話を、生徒の皆さんが熱心にお聞きいただいたことを嬉しく思っております。生徒の皆さんの感想文を読ませていただき、皆さんの真面目さ、真剣さを感じ、これからの生徒さん方の人生に、少しでも私の話がお役に立てれば、望外の喜びでございます。わざわざ御礼のお手紙をいただき、申し訳ありません。これから益々寒さも厳しくなつてきます。皆様方のご自愛とご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

本を読み異質な他者と出会うことの大切さ

日本教育新聞12月19日号掲載

心に残る 校長講話集



01180

杉本 賢二 山梨県道志村立道志中学校校長

「会話」は、知っている人と話題を共有し、関係を保つ目的でします。しかし、「対話」は、考えや根拠が違ふ人と、より良い考えを導くために行います。異質な他者は、排除の対象ではなく、より良く生き

異質な他者から学ぶ

象そのものだと考えます。小学校4年の国語で学んだ「ごんぎつね」を例にして考えてみましょう。ごんぎつねを読んだ皆さんの多くの感想は、「ごんは、かわいそう」ではないでしょうか。物語で話を進める飯の主体の「語り手」に着目して考えてみたいと思います。まず冒頭に、「これは、わたしがいかに、村の茂平」と書き、最後の場面で「そ

のとぎ兵十は、ふと顔を上げました」とあります。ここで初めて兵十の視点からごんが語られ「ごん、おまえだったのか」と、ごんの思いを兵十が理解します。ごんは、どのようなきつねとして村に語り継がれてきたのでしょうか。兵十が撃ってしまった後、それぞれ現場のごんの思いや行動を振り返り、「心に残る、忘れることができないきつね」として、加助に語った話と解釈できます。また、それが冒頭の一文につながると思えます。思い込みやすれ違いによる悲哀について考えさせられます。

と語り手はごんの視点から、兵十を語っていきます。例えば、「ごんは兵十を「おれと同じ一人ぼっちの兵十か」と何度も表現します。しかし、ごんの思いは読者には分かりませんが、兵十には伝わらないように語られています。言い換えると、ごんの兵十への思いは、全て二人の「すれ違い」として語られています。しかし、最後の場面で「そ

賞状伝達式の受賞者紹介

最近頂いた賞状を伝達しました。
様々な場面で各生徒が個性を生かし、努力して賞を頂きました。

南都留中学校英語暗唱大会 第3位 加藤 景己さん

第45回JA共済全国交通安全ポスターコンクール山梨県大会 銅賞 佐藤 優有さん

第45回JA共済全国交通安全ポスターコンクール山梨県大会 佳作 佐藤 紗名さん

第45回JA共済全国交通安全ポスターコンクール山梨県大会 佳作 佐藤 舞桜さん

第45回JA共済全国交通安全ポスターコンクール山梨県大会 佳作 白井 絢花さん

第41回夏休みの友紹介図書感想文コンクール 優秀 佐藤 秀虎さん

第41回夏休みの友紹介図書感想文コンクール 佳作 佐藤 紗名さん

「中学生の『税についての作文』 村長賞 加藤 三佳さん

「中学生の『税についての作文』 教育長賞 千々輪 光史さん

第72回教育祭県下小中学校図工・美術作品展 特選 加藤 三佳さん

第72回教育祭県下小中学校図工・美術作品展 特選 白井 絢花さん

第72回教育祭県下小中学校図工・美術作品展 特選 加藤 輝さん

第72回南都留地区小中学校教育祭図工・美術作品展 特選 加藤 三佳さん

第72回南都留地区小中学校教育祭図工・美術作品展 特選 山口 紗輝さん

第72回南都留地区小中学校教育祭図工・美術作品展 特選 白井 絢花さん

第72回南都留地区小中学校教育祭図工・美術作品展 特選 佐藤 紗名さん

第72回南都留地区小中学校教育祭図工・美術作品展 特選 加藤 輝さん

第72回南都留地区小中学校教育祭図工・美術作品展 特選 渡辺 脩大さん

道教協図工・美術大会 村長賞 千々輪 光史さん

道教協図工・美術大会 議長賞 加藤 景己さん

道教協図工・美術大会 教育長賞 入井 祿太さん

第41回全国中学生人権作文コンテスト 優秀 加藤 三佳さん

第41回全国中学生人権作文コンテスト 優秀 佐藤 雅也さん

第41回全国中学生人権作文コンテスト 優秀 白井 絢花さん

第41回全国中学生人権作文コンテスト 優秀 山口 桜愛さん